

黄河三角洲自然保護区でクロツラヘラサギを発見

単凱・呂卷章・朱書玉・于海玲・王力冬
訳 福井和二

黄河三角洲国家級自然保護区は山東省東營市の黄河河口にあり、北に渤海を臨み、東に萊州湾をひかえた、東経118° 33' ~ 119° 20'、北緯37° 35' ~ 38° 12' にあり、大汶流と黄河河口一帯の総面積は15.3万haにおよぶ、黄河河口の新生湿地の生態系保護と希少鳥類の生息環境である湿地の保護を目的とした保護区である。

黄河三角洲自然保護区における鳥類は265種を数え、その内、国家一級保護鳥類7種、二級保護鳥類33種(1995年資料)がみられる。この特殊な地理的位置と、優れた生息環境を擁する保護区は、東北アジア大陸と環太平洋西部の渡り鳥の中継地、あるいは越冬鳥類の生息湿地として重要な意義を有している。

発見過程

2001年10月27日、晴れ。保護区の科学的研究員が野外調査を進めるうち、意外な場所でクロツラヘラサギを発見した。発見地点は自然保護区大汶流管理区内の黄河河流に36羽と13羽の2群、計49羽を見つけた。調査員が見つけたときクロツラヘラサギは河岸で休息をとっており、一部が近くの小瀬で採食していた。調査員は300mほどの距離から25×の望遠鏡で観察し、クロツラヘラサギであることを確認した。

発見場所は黄河河口で、その環境は典型的な河口湿地帯である。黄河の近く約1 kmの所に黄河と並行して土の道が、河口の干潟まで続いている。その道が境になり、南側は湿地となりマツナが茂り、まばらにヨシが混生し、各所に小さな沼沢があり、満潮時には潮が入る潮間帯となっている。北側は黄河の河流に接し、河流はおおむね淡水で、幾つかの中州がある。岸边にはヨシがまばらに生え、少量のマツナもみられる。黄河の淡水と潮が交わるあたりの、河口湿地は生産力の高い生態系が発達し、域内の底生生物はエビ、カニ、小魚、貝類など異常なほど豊富で、鳥類を満足させるだけの食物を提供している。

この河流域内の環境に生息している鳥類はアオサギ、ヒシクイ、サカツラガン、カモメ、カワウ、タンチョウ、マナヅルなどが見られる。

潜在環境

河口湿地の高い生物の生産力は豊富な食物資源として鳥類の重要な採食地であり、もちろんクロツラヘラサギの理想的な採食場所となっている。保護区の海岸線は全長131kmで、その内、鳥類保護に重要な意義のある河口は、1002管理区の習口河口、四河口、三河口、黄河河口管理区の人工河口、大汶流管理区の黄河河口、旧黄河(1996年改修以前)河口、大汶流海溝、小島河口などである。

今回クロツラヘラサギの発見された地点は、大汶流管理区の黄河河口域内であるが、前述の幾つかの河口湿地の環境はよく似ており、クロツラヘラサギが利用する可能性があり、クロツラヘラサギの渡り中継地として採食資源の豊かな地域である。

クロツラヘラサギの発見された大汶流管理区の黄河河口附近における保護の現状は楽観できるものではない。黄河河口附近は漁場としても重要な所で、近海漁船がひたすら黄河沿岸を出入

りするため、クロツラヘラサギの採食場所近く2kmほどの所を毎日多くの漁船が通過する。黄河と並行に新しく造られた土の道は河流と1km程しか離れていない。漁民や収穫物を商う商人が、この道を利用している。クロツラヘラサギの採食場所と近いところでは500mと離れていない。我々の調査中も油田探査中の作業が行われ、現に最近、新しい油田が発掘された。その現場がクロツラヘラサギの採食地の1kmの範囲内である。これらの人為的干渉がクロツラヘラサギの生息に対して潜在的な脅威となっている。

討論

クロツラヘラサギは世界における絶滅危惧種で国家二級保護鳥類である。1998年冬季の調査で613羽。黄河三角洲において今日までの資料に滞在生息した記録はない。今回、初めて黄河河口地域で、この種が発見され、クロツラヘラサギがこの地域を利用していることが初めてわかった。クロツラヘラサギは我が国の東北地方、朝鮮、韓国などで繁殖し、我が国の東南沿海とベトナム北部沿海地域で越冬しており、今回朝鮮、韓国の繁殖地より高緯度の黄河三角洲で発見されたクロツラヘラサギは、朝鮮、韓国の繁殖地より飛来したと考えるより我が国の東北地方の繁殖地より飛来したとしか考えられない。現在までの資料では塩城自然保護区でのクロツラヘラサギの越冬が北限であり、もし、クロツラヘラサギが黄河三角洲自然保護区で越冬するならば、これがクロツラヘラサギの越冬北限地となるので、我々は観察、調査を継続して行う必要がある。

クロツラヘラサギが黄河三角洲へ出現したことは、この種が、この新しい地域の利用を開始したことを証明し、我が国の棲息地が減少している現在、クロツラヘラサギの生息に対し、かけられてきた圧力が、新棲息地の利用により、緩和されることになる。これはクロツラヘラサギの保護にとって有利なことである。

我々は、この稀少絶滅危惧種の保護対策を次のように提案する。

1. クロツラヘラサギ生息地の保護、管理の措置速やかに行う；具体的にいうならば、大汶流管理区責任者の黄河河流の管理を強化し、区域内の人間活動を制限し、クロツラヘラサギへの干渉を抑制する。区域内に監視所を設け、域内の人間活動の有効な監視、監督、制限を行う。
 2. クロツラヘラサギ生息地の環境保全；クロツラヘラサギの生息地を有する三つの管理区の責任者は生息環境の保護、管理をさらに強化し、研究者による潜在的な環境調査と、的確なクロツラヘラサギの生息調査を展開する。
 3. 教育、宣伝の強化；クロツラヘラサギが初めて黄河三角洲自然保護区で発見された意義と重要性を一般人は認識していない。保護区の責任者は周辺の生活者、漁業関係者、油田作業員に対し、積極的に宣伝、広報を行ない、彼らの保護意識の強化に努める。
 4. クロツラヘラサギに対する総合的な調査を進める；クロツラヘラサギについては未だ不明な点が多く、渡りの状況、滞在期間、越冬の可能性、生態習性など調査を必要としている。したがって、さらに精密な調査を進める必要がある。
 5. 標識調査の展開；関連機関と提携し、クロツラヘラサギの渡りの動態を知るために、標識調査を行ない、正確なデータの把握により渡り経路の解明に協力する。
- もし、黄河三角洲自然保護区においてクロツラヘラサギが越冬、あるいは固定的に渡り経路、中継地として利用するならば、我が国のクロツラヘラサギの保護上、一つの重要な基地となり、我が国のクロツラヘラサギの保護事業に基礎資料を提供することができ、さらに、この世界的な絶滅危惧種の保護に対し、積極的に影響を及ぼすこととなる。